

たばこは町内の
店で
買ひましょう。

報 おおおね

編集と発行 鹿兒島県肝属郡大根占町役場
総務課 文書広報係
(電話 大根占局 1・69・254番)
印刷 逆瀬川印刷所 (電話 140番)
町の人 昭和42年11月1日 現在推計人口
男 5,873人 計 12,517人
女 6,644人
前月より 10人増

(目で見(る)町政)

昭和四十二年度回顧

池田宿利原 両小学校の改築

葉たばこは空前の大豊作

新町議二十人が誕生



(改選後の初議会)

ことしは、夏場に一時千ばつの被害が心配されましたが他の地方にくらべて、たいした被害もなくすみました。また、数回にわたって台風の接近が報ぜられ、心配されましたが、幸い一回も来襲することなく年を送ろうとしています。

町政の面では、四月に行なわれた統一地方選挙によりまして、新しく二十名の新選良が誕生したのをはじめ、池田宿利原両小学校の危険校舎改築工事(第一期工事)が完成葉たばこの大豊作、塩屋部落の統合等、明るい話題の多い一年でした。以下、これらのことを中心とした、ことし一年間のおもなできごとをふりかえってみることにいたします。

四月二十八日行なわれた町議会議員の選挙は、私たちに
とって最も身近な選挙だけに
関心も高く、投票率は、九
四・六パーセント、という結
果でした。

この選挙によって、新しく
二十人の町議が誕生、五月九
日に改選後の初議会が招集さ
れ、投票の結果、議長に川辺
盛康氏、副議長に皆倉松二氏
がそれぞれ選任されました。

学校設備、道路、水道事業
を中心とした環境衛生の整備
農業構造改善事業を柱とした
農政の推進等、町政の前途に
は、まだまだむづかしい問題
が山積しています。

町民お互いの暮らしをよく
し、町勢を発展させるため、
これからの四年間をがんばっ
ていただくこととなります。

このほか、県知事、県議会
議員、衆議院議員の選挙等、
正に「選挙の当り年」でした

(できあがった宿利原小学校)



池宿両小の改築工事

ことしの学校建築工事のお
もなものは、池田、宿利原
小学校の危険校舎改築工事が
なされました。

四十一年度事業として行な
われたこの工事は、両校とも
鉄筋コンクリートづくり二階
建ての立派なものです。

できた校舎は、池田が、五
三八・八四平方メートル、工
事費二千二百九十九万九千四
百円で、普通教室七、保健室、校長室
職員室、塔屋などとなってい
ます。

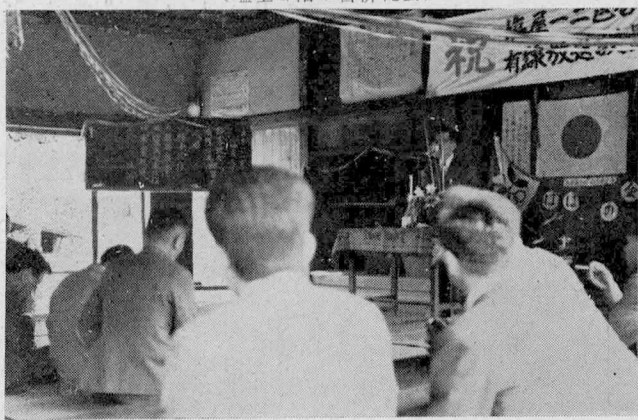
一方、宿利原の方は、七一
三・五平方メートル、工事費
一千七百九十五万四千円で普通
教室六、音楽室、理科室、同
準備室となっています。

両校舎とも、不足分は四十
二年度事業で工事がなされ、
現在施工中です。

この工事が完成しますと、
町内全小学校の改築工事が一
応完了することになります。

塩屋部落の統合

(塩屋部落の合併総会)



塩屋部落では、これまで、一区、
二区の両部落に分かれていたが、
ことし四月一日で両部落を統合し、
新しく「塩屋部落」として発足し
ました。町内には現在、五八の部落
組織があります。

町では、部落の果たす役割りから
地域や環境、規模など、あらゆる点
から考えて統合した方がよい、と考
えらるる部落に対しては、できるだ
け統合するようすすめています。

塩屋部落では、統合と同時に全
家に有線放送を設置し役場、農協等
からの連絡事項や部落内の簡単なお
知らせ等大部分がこれによって用が
たり、大きな効果をあげています。

これから先、私たちの日常生活は
もちろん、こうした行政的な面でも
諸事スピード近代化が要請されま
す。部落統合の問題は、部落民の自
覚にまつところが極めて大きいわけ
で、今後こうした部落統合がすすめ
られるよう望まれます

(目で見(る)町(政))

昭和四十二年(度)回顧

池田宿利原 両小学校の改築

葉たばこは空前の大豊作



(丹誠こめて植え付けられる葉たばこ)

史上最高と言われたことしのたばこ作は、予想通りの好結果で、耕作農家はもちろん関係者からも非常によるこばれています。

好天気に恵まれたことももちろんですが、ビニールの二重被覆をして早く植え付けられるなど、耕作農家の懸命な努力がこの結果を生んだと云えましょう。

総収納代金が、二百万円を上回る農家が出たのをはじめ一〇アール当りや、一キログラム当りの収納代金も、これまでに例のない好成绩でした。現在、後期の収納が行なわれていますが、当初の目標、二億四千万は軽く突破するものとみられています。

共によるこびにたえません。

このほか、山添部落の松元三郎さんの牛も、郡共で一等の一席に入賞したのをはじめ多くの出場牛が、何れも優秀な成績で上位に入賞しました。こうしたことは、他の飼育農家にも大きな刺激になり、今後このような立派な牛が生産されるものと期待されています。

池田、川北部落の、大園友二さんの飼っておられる「ふみめ号」は、九月の郡の共進会で、四部で一等一席に入賞、十月に行なわれた県の共

県共でも見事上位に入賞

活況を呈した畜産

進会三才の部で、優等の四席に入賞しました。

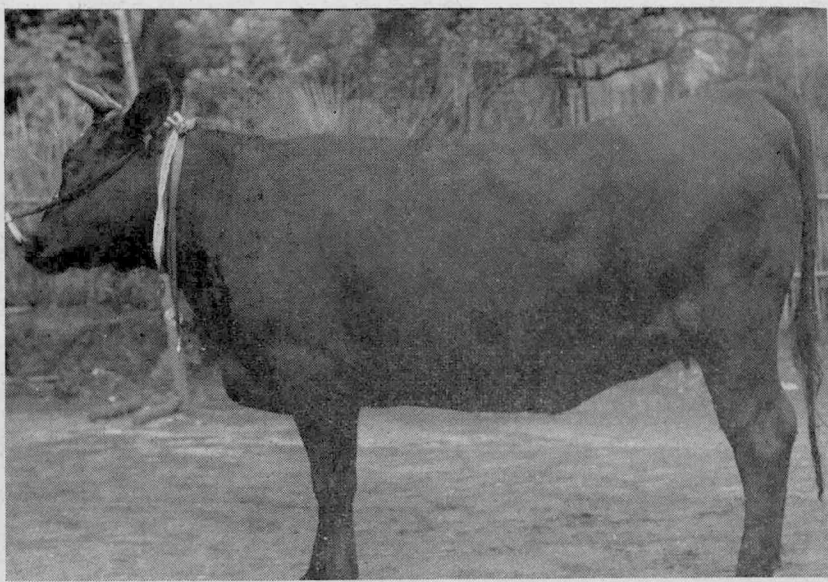
本町の牛が、このように県の共進会で上位に入賞したのは初めてのことで、皆さんと

たびに、市場間にかんりの値段のひらきがあり、本町の市場も他に比べて安価で取り引きされてきました。

このようなことから、大根占市場と、根占市場を合併して、三ヶ町(大根占、根占、田代)を一つにした家畜市場

を作ることになり、三ヶ町の中心に当る根占町内花ノ木地区に決定したのが、九月三日のことでした。

近く整地工事や施設がなされ、来年四月のセリ市から新しい市場でセリ市がなされることになっています。



大園さん所有の(ふみめ号)

後を絶たない交通事故

交通事故の問題は、今さらここで述べるまでもなく、大きな社会問題となっています。

飲酒、スピード違反、無免許運転の、いわゆる「交通三悪」をはじめ、運転者や歩行

者のちよっとした不注意によって起る事故が後を絶ちません。

町では、交通安全町民会議を通じて警察と協力し、事故の絶滅に努めているところで

す。ことし町内で発生した交通事故は十二月二十日現在死者一人、負傷者二十四人となっています。警察署の話では、これらの事故の総べてが、不注意による事故で、ちよっとした注意で防げる事故だということです。お互いに、充分注意し、無事故で明るい町づくりに努めましょう。

これらのほかに

町の消防団が

施設の充実、団員の士気や結束がすぐれ、出勤成績等が特にすぐれている、ということから、日本消防協会から表彰旗が授与されました。

これは、消防団最高の荣誉とされているだけに、このような優秀な消防団をもっていることは、私たちの大きな誇りです。

町誌の編さんに着手

本町に町制がしかれてから三十八年になります。

これまで、町の生い立ちや私たちの祖先のことなどをくわしく書いた「町の郷土誌」として、まとめられた記録がなく、早くからその必要性が痛感されていました。



(おそろしい交通事故現場)

来年は、明治百年の年に当り、県や国でもいろいろな記念行事や事業が計画されています。町でもこの記念事業の一つとして、町誌を編さんすることになりました。

町内外から、その道に造ける深い先生方六人を「町誌編さん委員」に委嘱し、現地調査やいろいろな資料の集収をいたしております。

製本の時期は、大体四十四五年ごろの予定ですが、町民皆さんが協力くださって、立派な「町誌」ができるよう協力を願うものであります。

池田中学校出身の 白井君派米

高校生に選ばれる
MBCが行っている「派米高校生」に、白井部葉出身の白井秀則君（鹿屋農業高校三

不幸なお年寄りに 暖い援助を

年寄であるため、からだは不自由であるなど、自分の力だけでは生活を営むことが困難な人たちの世話をする「老人家庭奉仕員」の制度ができました。

私たちお互いは、このような不幸な人たちに暖い援助の手を差し伸べてやらなくてはなりません。

老人ホームの設置がなされて、大部分のこのような人たちが入園されていますが、本人の希望で、どうしても入園されないお年寄りが町内にも相当数おられます。このような人たちの家庭を、毎週一

年（在学）が選ばれ、学校の夏休みを中心に四十日間、アメリカに派遣されました。

県下の各高校から推薦された七十九人のうちから十五人が選ばれ、その中の一人として派遣されたものです。

町では、同君の壮途を祝すと共に第二、第三の白井君のような青年が育つよう壮行会を開いて祝福しました。

継続的な 事業としては

※農業構造改善事業は（四十年一度事業）

県単構造改善事業として、鳥浜水田の用水路が、約七五〇米改修されたのをはじめ、白井に共同乾燥施設、三棟六室が増設されました。また、川北、川南部落に二九一・四九平方米の共同育苗施設が設置されました。

四十二年度は、鳥浜水田の区画整理事業、丸尾地区のみかん園造成事業と定置配管、鳥浜地区の定置配管事業等が実施されます。

※大根占水田の区画整理事業は、県営工事として事業がすすめられ、山ノ口の上の水田約二五ヘクタールの整理を終り、あと、木場上と役場上附近を残すだけとなりました。

農業を近代化していくうえには、土地の基盤整理事業は欠くことのできないことの一つだけに、一日も早く完成させたいものです。

※上水道事業は、水源地工事の工事は、ことしは、上ノ宇都の水源地の工事と、城元方面の関係部落の配管工事を実施中で、早ければ来年二月末ごろから給水できる予定にな

四十二年度は、鳥浜水田の区画整理事業、丸尾地区のみかん園造成事業と定置配管、鳥浜地区の定置配管事業等が実施されます。

※大根占水田の区画整理事業は、県営工事として事業がすすめられ、山ノ口の上の水田約二五ヘクタールの整理を終り、あと、木場上と役場上附近を残すだけとなりました。

農業を近代化していくうえには、土地の基盤整理事業は欠くことのできないことの一つだけに、一日も早く完成させたいものです。

※上水道事業は、水源地工事の工事は、ことしは、上ノ宇都の水源地の工事と、城元方面の関係部落の配管工事を実施中で、早ければ来年二月末ごろから給水できる予定にな

※町民運動会の開催
十一月三日「文化の日」に健康で明るい家庭を築き、スポーツを通じて町民の融和をはかる、ということから、きょう年に引き続いて、「町民体育大会」が開かれました。

大きな災害もなく、農作物も例年に比べて豊作とあって多数の町民が参加、楽しく盛大な会になりました。

去る十月十九日、鹿児島市で開かれた第十三回県下中学校駅伝競走に、町内宿利原中学校は、肝属南部四ヶ町代表として出場しました。

県下の代表三十二校が出場して行なわれる大会だけに、各地区とも一流校が参加するわけですが、宿中の選手諸君は、これら各チームの選手と

五千人を、それぞれ社会福祉のために役立ててほしい、と町の社会福祉協議会に寄附して下さいました。

社協では、御厚志を有がたくお受けし、社会福祉のため役立てる所存です。

厚くお礼申しあげますとともに亡くなられたかたがたのご冥福を心からお祈りいたし

ます。

※人老ホームにも喜入町民生委員、大根占警察署、大根占郵便局長、山元左源さんなどから、たくさんのお慰問品をいただきました。

入園中のお年寄りにかわって厚くお礼申しあげます。

全くと互角に健闘し、一時間十八分四十一秒という好タイムで見事十五位になりました。

初出場で、しかも恵まれない準へき地にありながら、日頃のたゆまない練習と、スポーツを通じて得た「負けじ魂」がその結果を生んだもので、私たちは、惜みない拍手と、声援を贈ってその健闘をたたえ、今後の努力を願いたいものです。

暴力で人の権利を侵した周囲の悪い習慣によって自由と権利が侵されています。

本原部落の原吉蔵さんが人権擁護委員です。人権に関することは、どんなことでもご相談ください。

善意の話題

栄町部落の大山ユキさんは、夫、貞右エ門さんの忌明けに当り、一万円を、皆倉上部落の平原喜太郎さんは、奥さん（イセミツさん）の忌明けに当り

ています。

※町民運動会の開催
十一月三日「文化の日」に健康で明るい家庭を築き、スポーツを通じて町民の融和をはかる、ということから、きょう年に引き続いて、「町民体育大会」が開かれました。

大きな災害もなく、農作物も例年に比べて豊作とあって多数の町民が参加、楽しく盛大な会になりました。

去る十月十九日、鹿児島市で開かれた第十三回県下中学校駅伝競走に、町内宿利原中学校は、肝属南部四ヶ町代表として出場しました。

県下の代表三十二校が出場して行なわれる大会だけに、各地区とも一流校が参加するわけですが、宿中の選手諸君は、これら各チームの選手と

五千人を、それぞれ社会福祉のために役立ててほしい、と町の社会福祉協議会に寄附して下さいました。

社協では、御厚志を有がたくお受けし、社会福祉のため役立てる所存です。

厚くお礼申しあげますとともに亡くなられたかたがたのご冥福を心からお祈りいたし

ます。

※人老ホームにも喜入町民生委員、大根占警察署、大根占郵便局長、山元左源さんなどから、たくさんのお慰問品をいただきました。

入園中のお年寄りにかわって厚くお礼申しあげます。



戸籍に関する情報は
ホームページ上では
掲載していません

青刈大豆を乾草飼料に

たばこ乾燥場を利用して

最近、牛の値段のいいことから、町内の飼養頭数も伸びています。また、いわゆる多頭飼養の傾向がみられ、一人五頭も養っている農家もあります。

条件に恵まれた所では、放牧によって飼養の手間を省くこともでき、粗飼料の問題もある程度緩和されてきます。しかし、こうした条件に恵まれない農家では、夏季はともかくとして、冬季の飼料に困り、自然、稲ワラ等、栄養価の低い飼料を与え勝ちです。以前に比べ、近ごろでは、エンバク、テオシント等、飼料作物の作付けがされるよう

なっています。

先進地に研修して

神川上 小園 増広

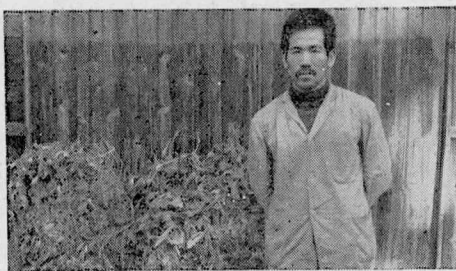


さる九月、十月の二ヶ月間、静岡県の温州みかん専業農家に留学研修いたしました。

研修先の、竹上実さん宅は奥さんと、長男の三人家族です。経営面積は、温州みかん二〇〇アール、水田五〇アールのみかん専業農家です。

今度の研修の最大の目的は

五月十日ごろ、青刈大豆（品種は霜かぶり）をビール麦のあとに作付けし、八月の上旬に刈り取って乾燥させます。刈り取った後、畑で一〇二日ぐらい乾かし、これを直径約四五・五センチぐらいの束にしてたばこ乾燥室につめます。（中馬さんの乾燥室は循環バルブ式）



（中馬さんと、できた乾草）

飼の少ないことから、省力には充分留意されております。まづ、農道が完全に整備され、どの園にも普通トラクタが自由に出入りしています。

園内には、農業散布用の定置配管が設置され、農業散布の労力が非常に軽減されるなど、すべての作業が機械化されておりますので、ほとんど家族労働によって、これだけの面積の経営が行なわれております。

販売面でも、農協に大連果場があり、全農家の七〇パーセントが共同販売をやっております。

竹上さんの家では、御主人は、経営面のこと、後継者である息子さんにまかせきりで、一しよに作業をされるだけです。奥さんは、薬剤散布

つめ終ったらすぐ火入をして、五・六時間の間に七〇度ぐらいまで温度をあげ、これを六時間位保ちます。この場合、排気窓は最初から全開にしておきます。乾燥に要する油の量は、約二〇リットルとのことです。中馬さんは、ことし約三〇アールの青刈大豆を作り、乾燥量にして、七八〇キログラムを得ておられます。

これからこのような乾燥を作る場合、畑で日ぼしにする場合は、一日ぼしのものが色や、歩留りもよく、できるだけ晴れたよい天気を選んで刈り取り、雨の日はさけた方がよいこと、などがあげられます。

今後はさらに、テオシントやエンバク等についても実験してみたい、と中馬さんも云っておられます。

朝は、七時半に作業開始、昼は一時間の休み、午後六時に作業終了、と時間は厳しく守られています。いつの場合でも作業の途中でも、時間がくれば作業は中止です。これなどは、私たちの鹿児島でも見習うべきことと思えます。

また、夜は家族をそろって、一日の作業のこと、日常生活のことや将来のこと等についてよく話し合っておられます。親子の話し合いと云うことは、これからの農業の後継者にとっては、非常に大切なことだと考えます。

この研修に参加して、つくづく、農業のよさ、ありがた

十二月は、一年のしめくくりをし、新しい年への心がまえを検討してみる月です。町では、毎年皆さんに実行していただく「年末年始の新生活運動」として、実践項目を設けています。

ことしも、次のような事項を守って、「より良い暮らし」「よりしあわせ」をめざして努力しましょう。

◎年末年始の形式的な贈答はやめて、貯蓄に心がけましょう。

◎家族の健康や親しみ、我が家の経済について過ぎた一年の反省をしてみよう

◎希望に満ちた新年を迎え、「我が家の目標」とそれをなすしとげる「計画」をたてよう。

◎年始回りは、夜間は八時までとしましょう。

◎なるべく部落年始会を開いて、部落づくり、町づくりについて話し合おう

◎なるべく部活動や少年団に育て、自立経営農家として仲間入りしたいと思おう

最後に、研修の参加について、いろいろ御世話くださった関係者の皆さんに、心から感謝申しあげ、厚くお礼申し上げます。

※十二月の解説

十二月の和名は「しは（わす）」といひます。「師走」という文字を当てておりますがこのことばの由来によるものでしょう。

古い文献によると「十二月僧を迎えて、経を読ませ、東西にはせ走るが故に、師走月」といふとあります。

一説には、十二月は、すべてのことをなすおわた月、しはてる月として、「四極」といふ文字を当ててあります。

あるいは、四時のはてる月の意味から「しわす」といふのだともいわれています。

このごろの十二月は、むかしのような切迫感というか、年の瀬といったしみじみした感慨が少なく、なつたようです。

経済の高度成長、商習慣の移り変わりで、もはやむかしの「盆暮れ払い」のような時代でなくなつたからでしょう。

若い人たちは、年末から年始にかけての休日、どう過ごしたのかと、計画を立てるのに忙しく、家族持ちでもこの休日を温泉で過ごすという人たちが年ごとにふえてきているといふことです。

とはいふものの、日本人にとって、この十二月は、一年の生活の区分けめどをつけるたいせつな月であることには変わりません。

※冬至

ことしの冬至は十二月二十二日に当たります。冬至は、中国の二十四節気



の一つで、旧暦の十一月後半（ことしは旧暦十一月二十一日）にやります。この日は、太陽の黄経が二百七十度、高度が三十一度となります。このことは太陽が一年中で最も南に位置し、北半球での正午の太陽の高さが最も低いということになります。したがって一年中で、いちばん日照時間が少なく、反対に夜がいちばん長い日です。東京の緯度では昼間が九時間二十五分になります。

中国では、冬至を、暦の起源としています。キリストの誕生日であるクリスマスも、この冬至と関連していると考えられています。

人類の祖先たちがこの日を境にして、太陽の光が日まじりに長くなることを感じとり、そこに神を見出したのでしよう。

日本では、むかしから、冬至にゆず湯をわかしてはいる風習があります。これにつかれば、冬なかぜをひかないといひ伝えられています。またこの日かぼちゃを食べれば中風にかからないなどともいわれています。

たいして根拠のあることでもありませんが、冬の野菜不足を補うことから、まんざら意味のない言ひ伝えでもなさそうです。事実ゆず湯にはいると、からだがすすべしと血行がよくなります。またいまのように冷凍設備のなかったむかし、かぼちゃが長期の保存にたえたことから、やはり一つの生活の知恵といえます。